

シンポジウム

2008年

6月7日(土) 13:00~

8日(日) 10:00~

NARRATIVES  
IN  
ART DOCUMENTATION

# 物語

# アート

# ドキュメンテーション

アート・ドキュメンテーション学会 2008年度年次大会  
2008 Annual Conference of JADS: Japan Art Documentation Society

会場 ●  
京都国際マンガミュージアム  
多目的映像ホール

参加費 ●  
会員 1000円  
一般 2000円  
京都精華大学生 500円  
(大会資料代、土日両日の常設展・特別展入場料を含む)

申込み・問合せ ●  
アート・ドキュメンテーション学会  
<http://www.jads.org/>

主催 ●アート・ドキュメンテーション学会  
共催 ●京都国際マンガミュージアム  
後援 ●京都精華大学、京都市教育委員会

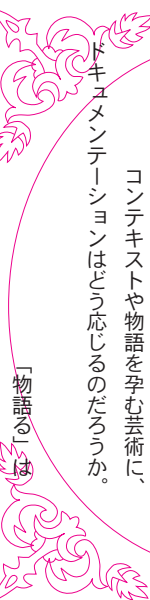


Designed by Mai Sakamoto

様々な芸術の形態として  
絵画、マンガ、演劇・映画、舞踊、写し絵を取りあげ、  
静と動、モノとコトの関係性を比較・検証しながら  
“物語るアート・ドキュメンテーション”を考える。

「モノ」は記述され「コト」を語り、  
に読み解くことができる。

「モノ」と「語る」



アート・ドキュメンテーションはこれまで  
絵画や彫刻など静的なオブジェクトを  
対象としてきた。  
一方で  
時間や動きを伴う芸術や、  
コンテキストや物語を孕む芸術に、  
ドキュメンテーションはどう応じるのだろうか。

シンポジウム

# 物語る アート ドキュメンテーション

JADS 2008年度 年次大会  
Narratives In Art Documentation

主催●アート・ドキュメンテーション学会  
共催●京都国際マンガミュージアム  
後援●京都精華大学、京都市教育委員会

年次大会実行委員長●山本浩幾(早稲田大学演劇博物館)  
副実行委員長●上田修三(京都国際マンガミュージアム事務局長)

問合せ・申込み●アート・ドキュメンテーション学会  
<http://www.jads.org/>



**M** 京都国際マンガミュージアム  
KYOTO INTERNATIONAL MANGA MUSEUM

〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上ル(元龍池小学校)  
●京都市営地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅2番出口すぐ  
●京都市バス(15・51・65系統)京都市バス(61・62・63系統)  
いずれも「烏丸御池」停留所下車すぐ

6月7日(土) 13:00～ シンポジウム [開場は30分前]

基調講演●「イメージとテキストの交感：歴史的事例から見るアート・ドキュメンテーション」 鷲見洋一／アート・ドキュメンテーション学会会長

報告1●「物語る美術作品のドキュメンテーション：一西洋美術史研究者の立場から」 千速敏男／成安造形大学造形学部准教授

第1回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム(1995年)では、美術史学という活動の出発点となる美術作品の作品記述とドキュメンテーションとの関係について論じ、西洋の美術史学のなかで培われてきた「iconography(図像誌)」という方法論がアート・ドキュメンテーションに寄与することを明らかにしました。しかし、19世紀以降の、いわゆる「近代絵画」や「現代アート」の領域においては、あるいはまた映画や漫画といった20世紀に新たに生まれたマス・カルチャーの所産に目を向けるとき、iconographyという方法論の限界もあらわになってきます。そこで、今日の多彩な造形活動を視野に入れ、西洋美術史を研究している立場から「物語る(narrative)」美術作品のドキュメンテーションの可能性について論じたいと思います。

報告2●「非／アートとしてのマンガの収集・保存・公開に関する諸課題—京都国際マンガミュージアムの研究活動を通じて」 吉村和真／京都国際マンガミュージアム 京都精華大学国際マンガ研究センター 研究統括室長、京都精華大学マンガ学部准教授

2006年11月、京都市と京都精華大学の共同事業として、京都国際マンガミュージアムが開館した。現在の蔵書数は約20万点。2008年度末までに約30万点をめざす当館には、しばしば寄贈の申し入れがある。コレクター、研究者、出版関係者、愛読者、一読者と、その立場はさまざまで、ジャンルや年代も十人十色である。また、館内廊下にしつらえた「マンガの壁」に並ぶ約5万冊の開架図書も、貸本屋からの寄贈で成り立っている。本報告では、このような状況にある当館から見た、マンガの収集・保存・公開が抱える課題や今後の可能性について考えたい。それは、非／アートとしてのマンガの存在意義に思いを巡らすことになるだろう。

報告3●「(財)松竹大谷図書館の資料整理方法について」 井川繭子／財団法人松竹大谷図書館司書

(財)松竹大谷図書館は昭和33年の開館以来、演劇・映画の専門図書館として、資料の収集と公開を行ってきた。演劇・映画に関する図書、雑誌のほか台本、スチール写真、各劇場のプログラム、ポスターなど現在約39万点に及ぶ所蔵資料は、開館時に設定した資料分類法によって整理されている。平成16年から図書館管理システムを導入し、コンピュータによる資料の登録を開始したが、多種多様な資料を整理するために様々な工夫を行っている。今回は図書館の紹介と資料の整理方法、また図書館管理システムへの移行による問題点、さらに、日常業務の中でのデータベース作成と活用法などについて述べたい。

報告4●「3次元モデルを用いた伝統舞踊アーカイブ」 片山美和／NHK放送技術研究所 人間・情報 3次元映像処理研究グループ専任研究員

私たちの研究グループでは、被写体を取り囲むように配置した40台のカメラで撮影した映像から、被写体の3次元映像を生成する研究を行っています。同時に撮影された複数のカメラの映像から被写体の3次元モデルを生成します。一度モデルが生成されるとカメラ位置にない視点からの映像も生成することができるようになります。紹介するシステムでは、背景や音声再生を同期させ、能のシーンを表示します。ユーザーは、コントローラーにより好きなアングルから映像を見ることができます。報告では撮影から表示までの技術概要と3次元モデルを用いた他のアプリケーションの紹介、その他好きな視点で見ることでできるシステムの紹介をします。

報告5●「写し絵を成立させた江戸の政治と文化」 山形文雄／劇団みんなわ座代表、写し絵師 平成玉川文楽、田中佑子／劇団みんなわ座美術、写し絵研究

「写し絵」は南蛮渡来のマジックランタンを、日本独自に改良、発展させたものです。その映像表現には日本独自の美学が投影されています。現在、アニメ大国となった日本のその源を、江戸時代の日本絵画様式や、手法、日本人の感性などの視点から探ってみます。20年間写し絵を調査し、器材の復元と上演を続けてきた中で感じた事、研究の課題などを紹介します。

横断的討議●パネルディスカッション

6月8日(日) 10:00～ [開場は30分前]

午前●公募研究発表会／アート・ドキュメンテーション学会総会  
午後●京都国際マンガミュージアム施設見学会 [14:30～]